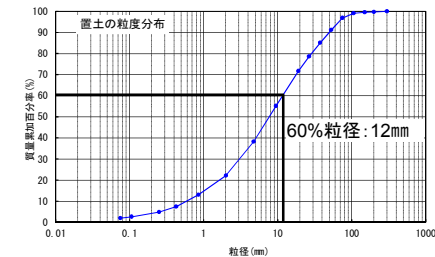
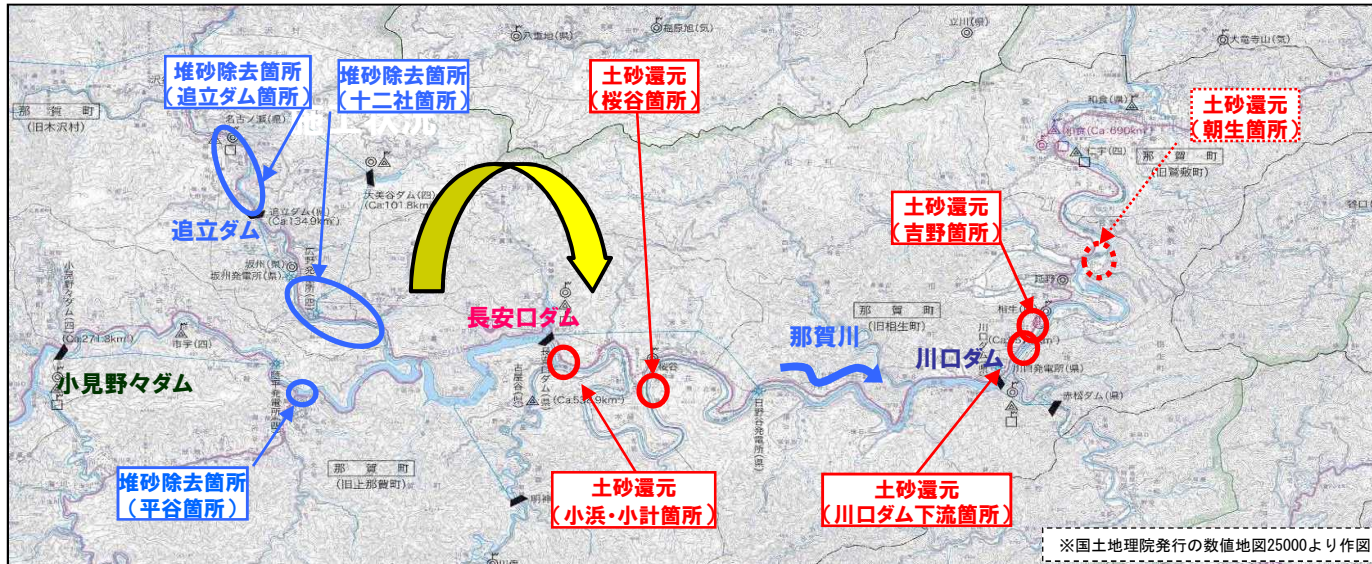


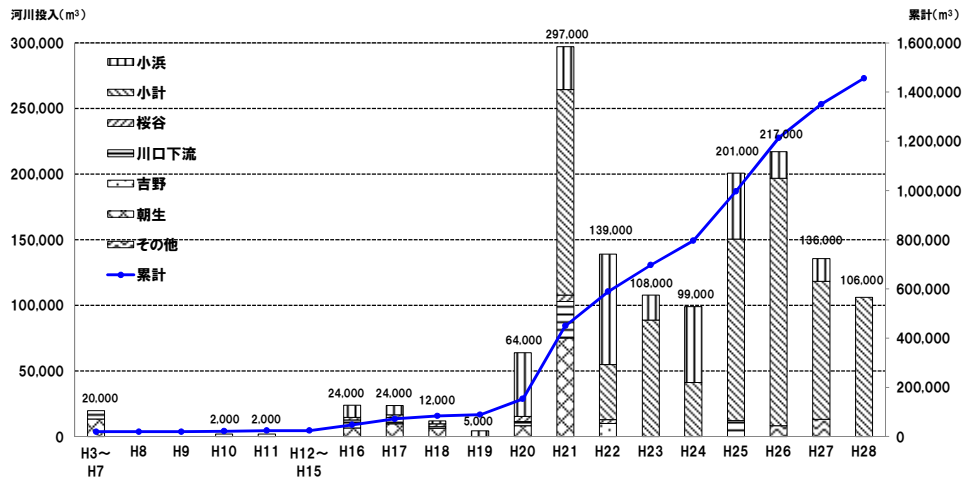
ダム下流への置き土(長安口ダム)

■ 土砂還元実績

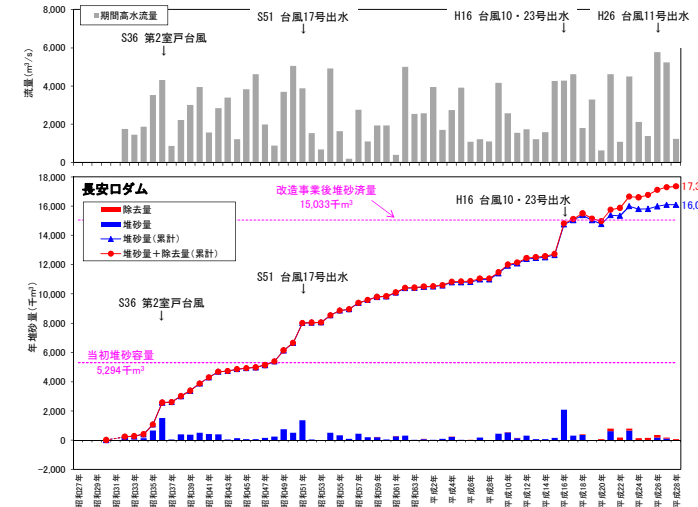
- 平成19年～平成28年の10年間に、約1,372千 m^3 の土砂還元が実施されている。
- 掘削箇所の粒度分布をもとに求めた還元土砂(置土)の粒度分布は、60%粒径12mm、礫分76%、砂分24%の礫集団で構成されている。



還元土砂(置土)の粒度分布
(平成20年調査結果)



平成19年～平成28年の土砂還元(置土)量



長安口ダムの堆砂進行状況

ダム下流置き土の様子(長安口ダム)

【平成26年度出水(台風11号)】

最大放流量5384m³/s

こはま
小浜箇所

こばかり
小計箇所

かわぐち
川口ダム下流箇所

出水前(H26.7.11)



出水前(H26.7.11)



出水前(H26.7.11)



出水後(H26.8.19)



約85,000m³流下

出水後(H26.8.11)



約88,000m³流下

出水後(H26.8.11)



約11,000m³流下

【平成27年度出水(台風11号)】

最大放流量4618.3m³/s

こはま
小浜箇所

こばかり
小計箇所

出水前(H27.6.24)



出水前(H27.6.17)



出水後(H27.7.21)



約15,000m³流下

出水後(H27.7.17)



約119,000m³流下

置き土後の河川景観と河床材料の経年変化(長安口ダム)

○還元土砂による堆積で浅くなり、平瀬や早瀬等の瀬に変化している。
○河床材料では、岩や石が中礫・細礫の堆積により埋没し、還元土砂の粒径割合に近い状態に変化している。

H21.1撮影



H21.1月撮影



H24.9撮影



H24.8月撮影



H26.12撮影



H26.12月撮影



H28.3撮影



H28.1月撮影



・河床にヘドロが堆積



・土砂の供給がみられる
・ヘドロの堆積が減少



・大量の土砂が供給され、寄州が形成



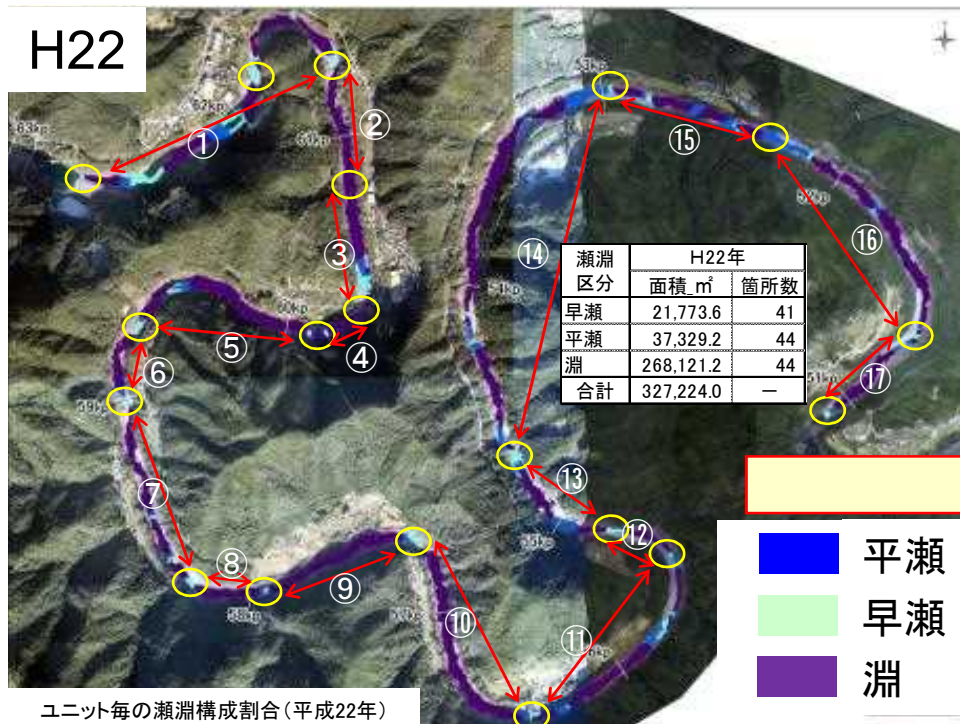
・大規模出水により土砂が再度流され、大礫が露出
・河床が多様な形態を形成している

川口ダム上流域における土砂還元後の瀬淵分布の変遷(長安ロダム)

○淵環境が減少し、平瀬環境が増加している。



H22



H26

